

特113

889

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

始



43 113
889



		ツレ 從僧	ワキ 旅僧	後シテ 富士の 妻の靈	シテ 庵の 女
		右同斷	大口價	鳥甲 色無縫箔腰卷 腰帶 舞衣 扇 (舞衣は太鼓臺にかけ中 入前謡の中に出す) 其他前同斷	(面)深井、曲見にても(前後) 髪 同帶 着附箔 色無唐織 着流し 扇
目	番	四	類別	吉住國津攝	所
	定			不	季

梅枝

内之部卷ノ七ノ四

梅枝一

不 4 7
内交

解説

ワキ表

『捨ても廻る世の中は』

と、納めて謡ふべし。

ワキ、同ツレ二人と次第にて出で、舞臺へ入り向き合ひ、

名宣、道行同断。着き濟み三人共ワキ坐に行き坐着く。

シテ、アシラヒにて扇持ち出で、橋懸にて留め謡ふ。

シニ表

『實にや松風草壁の宿に通ふといへ共』

此處は納めて謡ふべし。以下ワキとの懸合宜しくあり、

あり、

地三表

『西北に雲起りて』

の地にて、シテ、舞臺に入り、中にて下に居る。此謡の中に太鼓臺正面先へ出すなり。

へ出すなり。

ワ同キ

『いかに主に申すべき事の候』

此詞はシテへかゝり謡ふべし。

シニ表

『昔當國天王寺に』

此處より改めて謡ふべし。以下懸合宜しくありて、

地六表

『住むもかひなき池水の』

こ、地しつとりとつけて謡ふ。中入。此時舞衣取入れてシテ着す。

問濟み、

ワ六表

『夫佛法様々なりと申せども』

此處は納めて謡ふべし。

地七表

『即得成佛何疑ひかありそうみの』

此地はしつとりとつけて謡ふ。

同同

『或は若有聞法者』

此處より氣を變へ謡ふ。

ワ七表

『ふしぎやな見れば女性の姿なるが』

此地はしつとりとつけて謡ふ。此後シテに種々の形あり見計ひ謡ふべし。

此地の中に後シテ出で、舞臺に入り、中にて床几にかゝる。

見計ひ謡ふべし。

翠

梅枝

捨るも過る雪はゆくきこる花

浦ありきまのさへ甲斐乃國

身はあはれなる花も儂しく作我

孫乃白雲の影は海度たてしきま

花子にまらねるよ。海度田のうらみ

梅

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

梅ツバキの香気は清々として
 心洗はるる如きものなり
 春の初めは梅の花が
 先づ開き人々に知らせる
 花は人々の心を
 清くしめしめす
 梅の花は人々の心を
 清くしめしめす
 梅の花は人々の心を
 清くしめしめす

梅ツバキの香気は清々として
 心洗はるる如きものなり
 春の初めは梅の花が
 先づ開き人々に知らせる
 花は人々の心を
 清くしめしめす
 梅の花は人々の心を
 清くしめしめす
 梅の花は人々の心を
 清くしめしめす

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a long horizontal line that may be a signature or a title. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It also consists of approximately 10 lines of text, written in a dark ink on aged paper. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

梅

5

し 事 有 り 後 ^レ 何
と 物 語 の 文 字 出
る 事 有 り 後 ^レ 何
の 事 有 り 後 ^レ 何
の 事 有 り 後 ^レ 何

昔 小 鼓 大 鼓 村 中 音 節
の 事 有 り 後 ^レ 何
の 事 有 り 後 ^レ 何
の 事 有 り 後 ^レ 何
の 事 有 り 後 ^レ 何

かく執を助を致しんか
侍は様をいふもさへはた
是を身へては女の諸は乃出せの
本懐は成侍の直道なり
あはれに女に成はれん

うはては者なる作は
者帝はなる皇は
を王に若は身は何女身
成はるはなるは
さ執をさるは
或は名有は法なる

七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

七

九

^花我もははなを護るわさく

今日前よたらゆる花の袖を

しらぬやうにわさくをさるる

乃樂の敷りゆらわ花あつら

庭の^{ヤラ}花を^{カサ}かき^{カサ}つら

を^{カサ}花も^{カサ}執らるる^{カサ}花を^{カサ}さるる

花の^{カサ}花を^{カサ}かき^{カサ}つら
花の^{カサ}花を^{カサ}かき^{カサ}つら
花の^{カサ}花を^{カサ}かき^{カサ}つら
花の^{カサ}花を^{カサ}かき^{カサ}つら



著作權所有

大正

五年
四月

四日印刷
九日發行

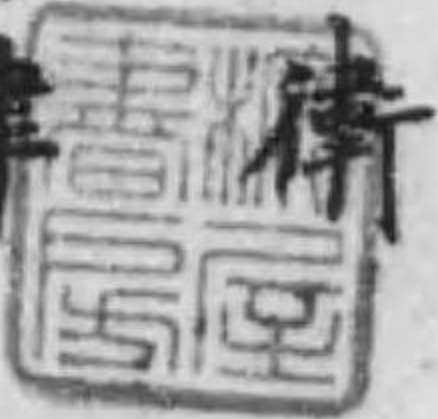
東京市深川区西平野町一番地

著作者 寶生九郎



東京市日本橋區通四丁目八番地

發行者 江島伊兵衛



東京市日本橋區通四丁目八番地

發行所 椀屋謠曲書肆

東京市神田區皆川町二番地

印刷者 田村茂太郎

終

